

令和8年10月13日

職 員 各 位

八代市長 小野 泰輔

令和9年度予算編成に向けて

本年7月28日に再び発生した熊本地震では、市内の住宅、公共施設、商工業・農業基盤、さらには道路、上下水道などのインフラ施設にも甚大な被害をもたらした。これにより、本市は、これまで進めてきた「豪雨災害等からの創造的復興」「八代未来づくりビジョンに掲げる施策の推進」に加え、「令和8年熊本地震からの復旧・復興」という極めて重い課題に直面している。また、地震発生後より、迅速に災害対応にあたっているところだが、発災から2ヶ月半が過ぎた今もなお、大勢の市民が住宅の確保や生活再建に不安を抱えながら厳しい生活を余儀なくされている。こうした状況から一日も早く市民が立ち直れるよう官民一体となり、最優先で復旧・復興に向け被災者に寄り添った対応を推し進めていく必要がある。

また、「子どもたちが誇れるまち 八代」を“めざすまちの姿”として中心に据え策定した、八代未来づくりビジョンについては計画2年目を迎える。熊本地震からの復旧・復興を進めていく中、子どもたちが将来にわたって誇りをもてるまちを築いていくため、社会経済情勢の変化や多様化する市民ニーズに、これまで以上に迅速かつ柔軟に対応していくことが求められている。

近年、物価高騰や賃上げなどにより行政コストが増加し続けるなか、今後数年は、地震対応により急増する財政需要へ集中して財源を投じていく必要がある。また、限られた財源で、市民ニーズへ対応していくためには、社会変化に俊敏に対応し事業の見直し等を重ねていくことも重要である。そのため、予算要求にあたっては、その事業が市民にとって真に必要なものであるかをこれまで以上に精査し、災害対応と未来への投資を両立させるため職員一丸となって取り組まれない。